

平成20年度 和歌山県観光統計調査

平成21年3月

和歌山県

和歌山県では、本県を訪れた観光客へのアンケート調査を実施し、観光客のプロフィール、訪問先、目的、満足度、消費額などについて、データの収集と分析を行いました。

<調査方法>

- ・和歌山県内の主要観光ポイント等に来訪している観光客を対象とした調査員による対面聞き取り調査
- ・県内の主な宿泊施設における宿泊客を対象とした留め置きアンケート調査

<調査日>

・聞き取り調査

夏調査：平成20年7月27日（日）、平成20年8月3日（日）
 秋調査：平成20年10月19日（日）、平成20年10月26日（日）
 冬調査：平成20年12月21日（日）、12月23日（祝・月）

・留め置き調査

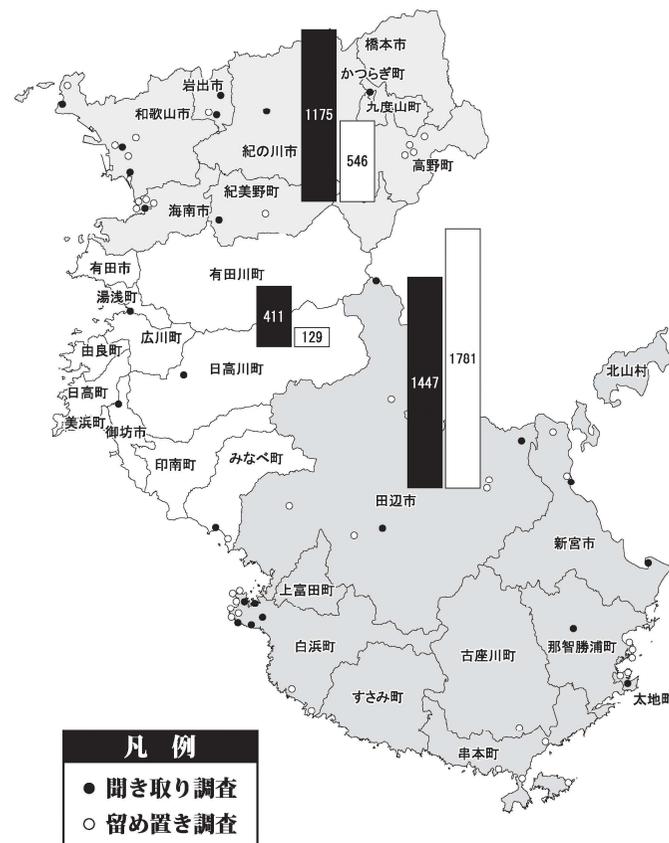
夏調査：平成20年7月27日（日）～8月3日（日）
 秋調査：平成20年10月19日（日）～10月26日（日）
 冬調査：平成20年12月13日（土）～12月31日（水）

<調査地点、サンプル数>

- ・県内聞き取り・留め置き調査

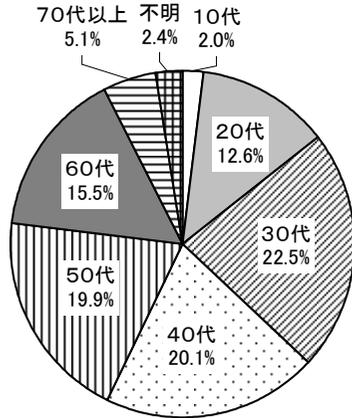
	聞き取り			
	夏調査	秋調査	冬調査	合計
紀北	461	416	298	1175
紀中	126	156	129	411
紀南	607	490	350	1447
合計	1194	1062	777	3033

	留め置き			
	夏調査	秋調査	冬調査	合計
紀北	318	99	129	546
紀中	67	20	42	129
紀南	846	396	539	1781
合計	1231	515	710	2456

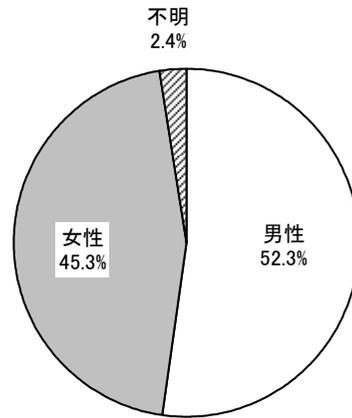


中高年齢層、男性、近畿圏内の来訪が多い

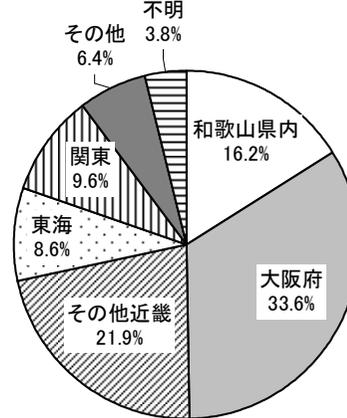
■ 年齢



■ 性別



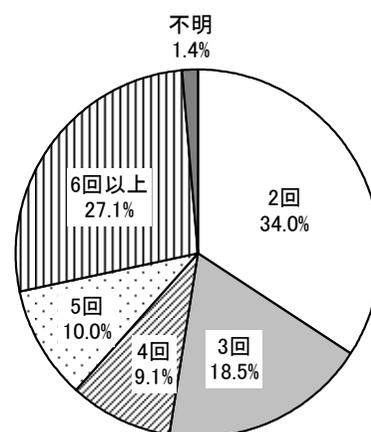
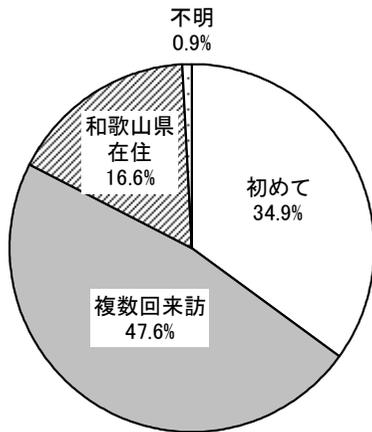
■ 居住地



年齢では、「30代」が最も多く、次いで「40代」、「50代」、「60代」が多くなっている。性別では、「男性」が「女性」よりも7.0%多くなっている。

居住地別では、「大阪府」が最も多く、次いで「その他近畿」、「和歌山県内」、「関東」、「東海（三重県を含む）」が多くなっている。

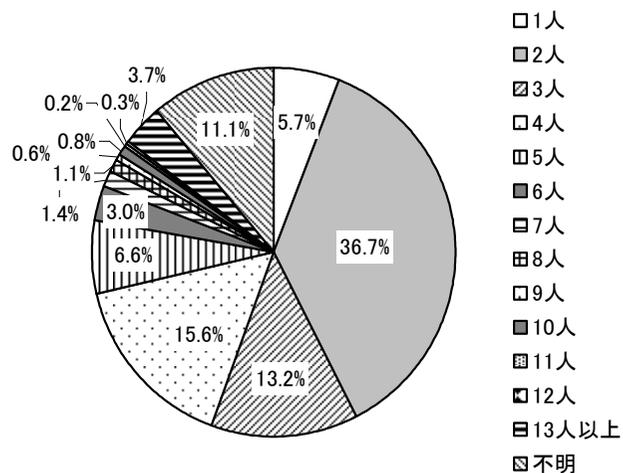
リピーター率は約50%



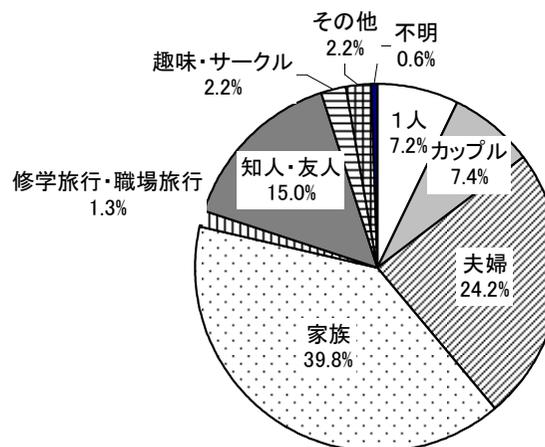
来訪回数は、「複数回来訪」が47.6%を占め、「初めて」が34.9%となっている。年齢が高くなるほどリピーター率が高く、地域別には紀北地域で「6回以上」が約半数を占めている。来訪者の居住地別では、近畿圏内の人のリピーター率が高くなっている。リピーターが和歌山県を選択した理由としては「距離が近い」や「以前来て良かった」、「景色がきれい」を挙げている。

少人数での来訪、家族での来訪、個人旅行が多い

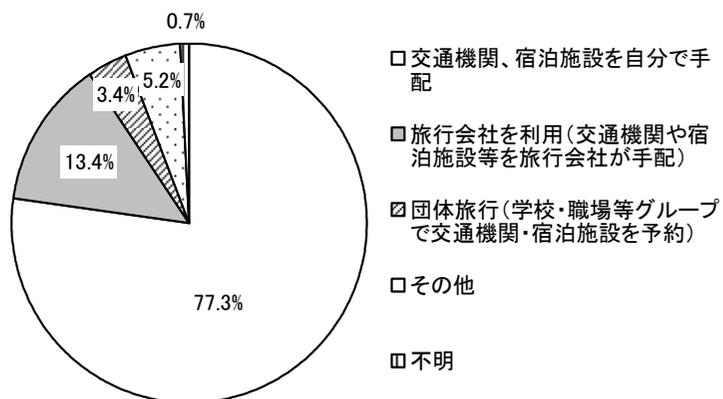
■ 来訪人数



■ 来訪単位



■ 旅行代理店の利用状況



■ 来訪人数

「2人」が最も多く、36.7%を占めている。50%以上が「3人」以下と少人数での来訪が多くなっている。

■ 来訪単位

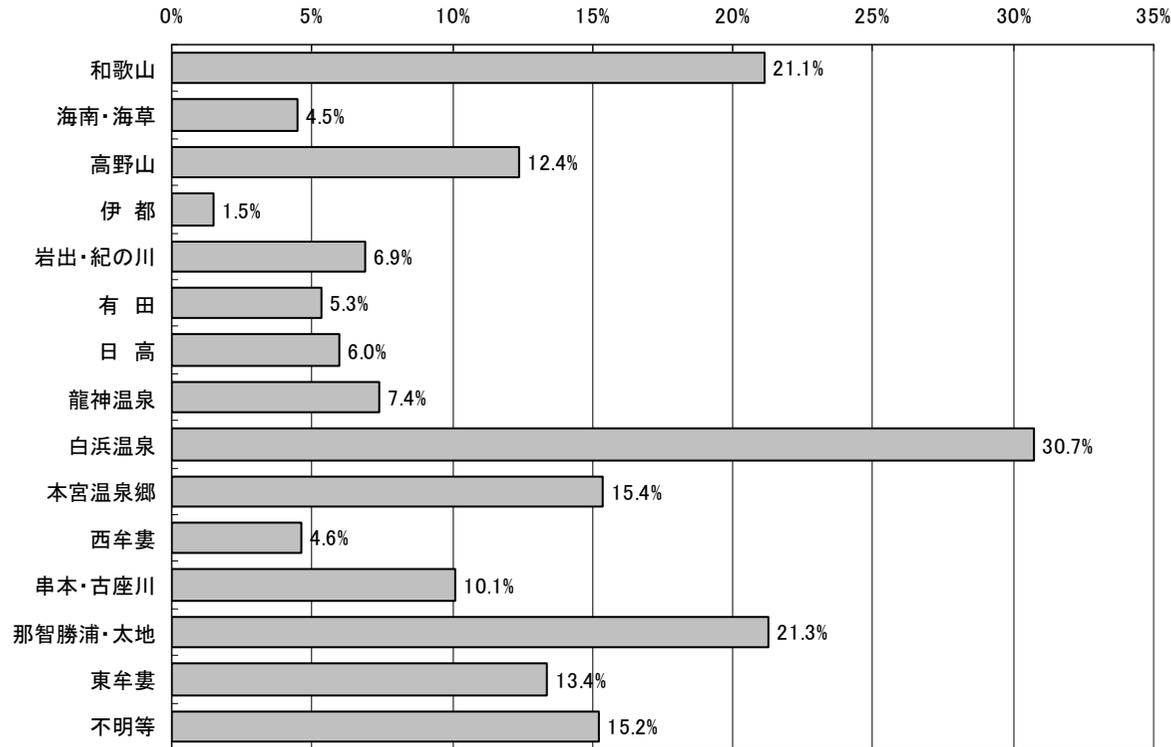
「家族」が最も多く、39.8%を占めており、次いで「夫婦」が24.2%、「知人・友人」が15.0%となっている。

■ 旅行代理店の利用状況

「交通機関、宿泊施設を自分で手配」が最も多く、77.3%を占めている。

白浜温泉、那智勝浦・太地、和歌山市への訪問が多い

■訪問観光地

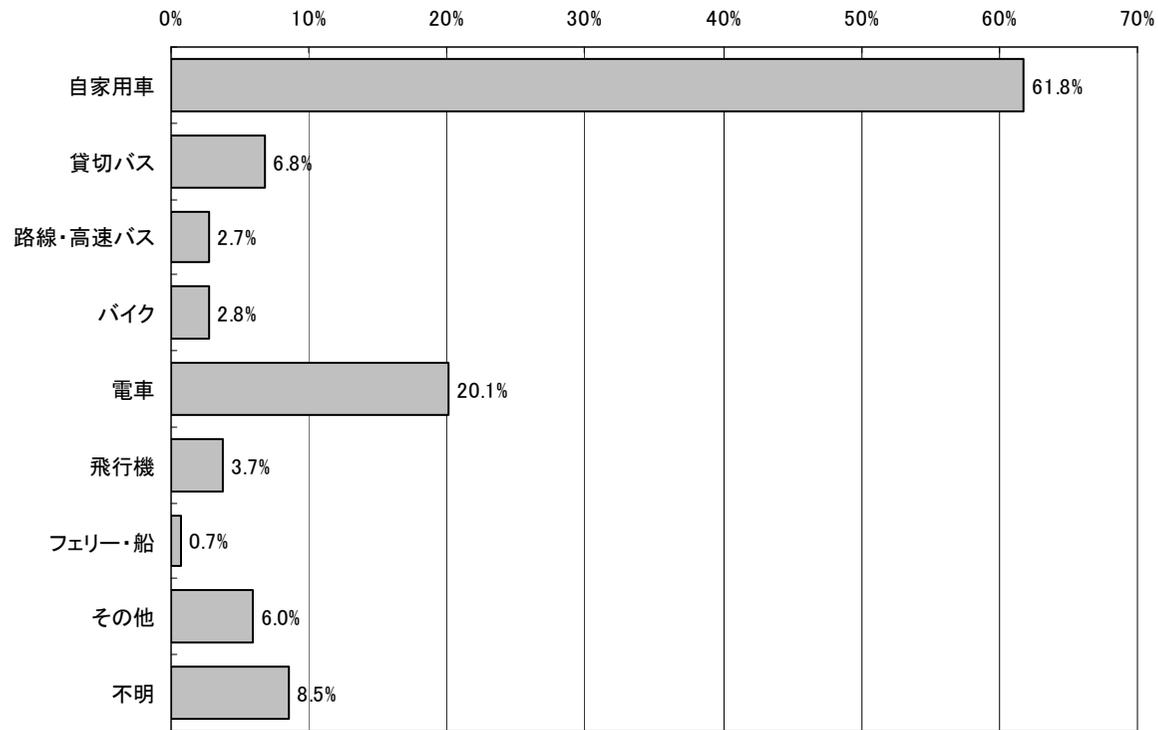


(複数回答)

「白浜温泉」が最も多く 30.7%を占めており、次いで「那智勝浦・太地」の 21.3%、「和歌山市」の 21.1%となっている。来訪者の居住地別では、どの居住地からも「白浜温泉」「那智勝浦・太地」「和歌山市」への訪問が多くなっている。三重県、東海、関東では、「本宮温泉郷」「新宮・熊野川・北山」が多くなっている。

自家用車を交通手段にしている人が多い

■和歌山県までの交通手段

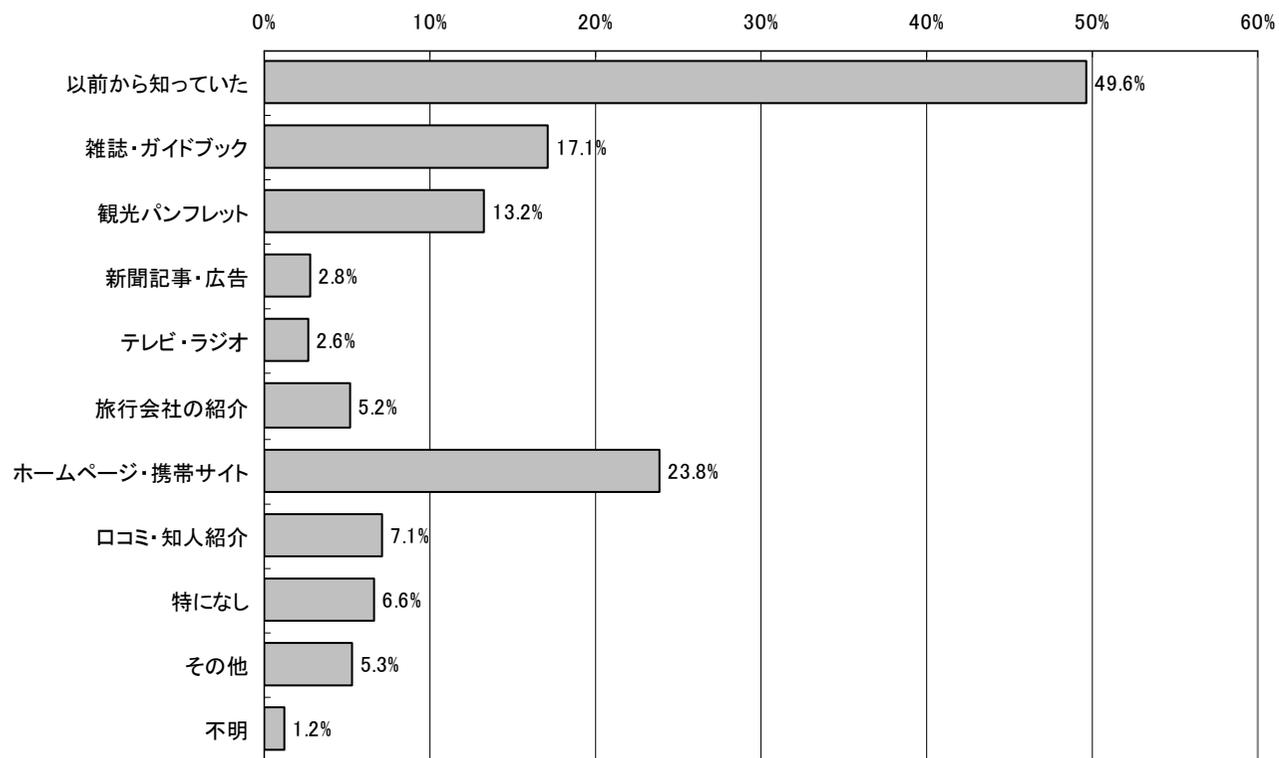


(複数回答)

「自家用車」が最も多く 61.8%を占めている。次いで「電車」の 20.1%、「貸切バス」の 6.8%となっている。なお、県内での交通手段をみると、「自家用車」が最も多く 66.6%を占めている。次いで「電車」の 13.9%、「路線・高速バス」の 8.6%となっている。

「以前から知っていた」が約半数

■情報源

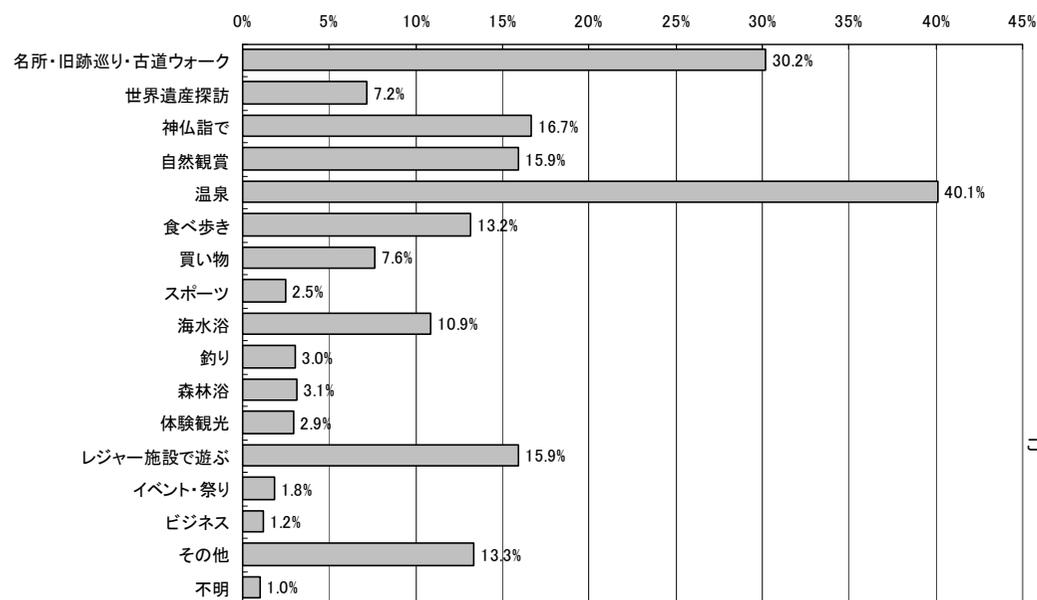


(複数回答)

「以前から知っていた」が最も多く49.6%を占めている。次いで「ホームページ・携帯サイト」の23.8%、「雑誌・ガイドブック」の17.1%となっている。また、60代以上では「観光パンフレット」が多く、10代～50代では「ホームページ・携帯サイト」が多くなっている。

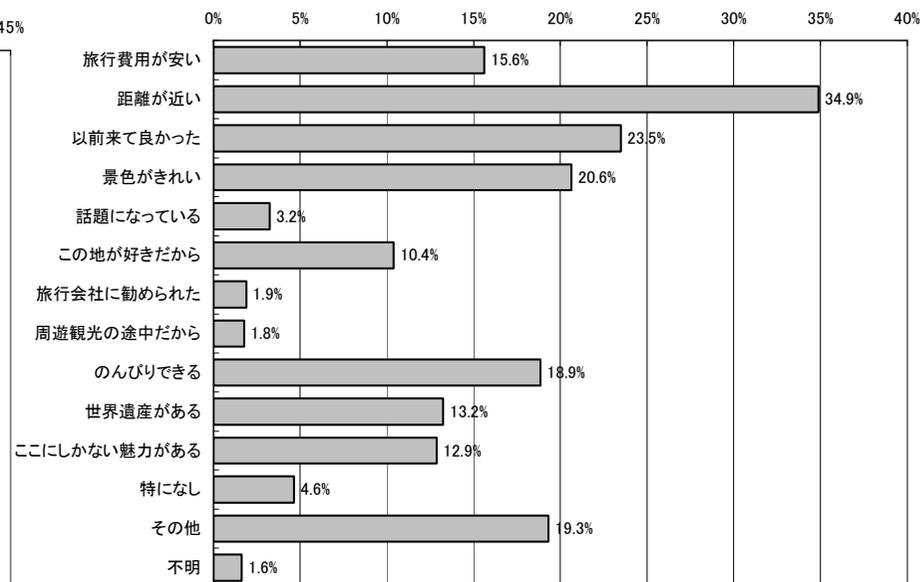
温泉目的の来訪が多く、距離が近いから来訪したという人が多い

■ 来訪目的



(複数回答)

■ 和歌山県を選択した理由



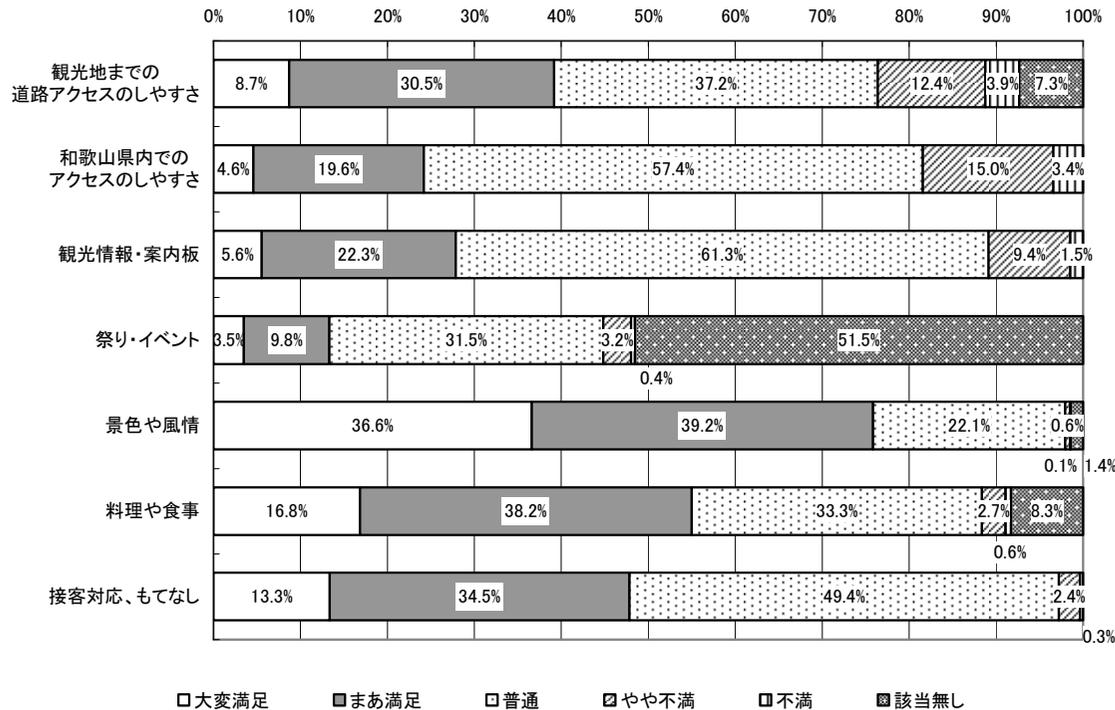
(複数回答)

「温泉」が最も多く、40.1%を占めている。若い世代では「スポーツ」や「レジャー施設で遊ぶ」が多いが、50代以上では「神仏詣で」が多くなっている。カップルや家族で来訪した人は「温泉」、「レジャー施設で遊ぶ」が多くなっている。近畿圏内の人には「レジャー施設で遊ぶ」が多いのに対して、東海や関東の人は「神仏詣で」が多くなっている。「名所・旧跡巡り・古道ウォーク」は日帰り・宿泊に関係なく多いが、宿泊する人は「温泉」が多いのに対して、日帰りの人は「神仏詣で」や「自然観賞」が多くなっている。

「距離が近い」が最も多く、34.9%を占めている。次いで、「以前来て良かった」の23.5%、「景色がきれい」の20.6%となっている。また宿泊先決定時に重視した点は、「温泉が楽しめる」が最も多く、51.5%を占めている。次いで、「宿泊施設の立地条件がよい」の36.7%、「料金にお得感がある」の28.9%となっている。

「景色や風情」は最も満足度が高い

■観光地の満足度



■観光地の満足度

大変満足5点～不満1点として平均点を算出（不明、該当なしを除く）すると「景色や風情」が最も満足度が高く、4.13点となっており、まあ満足以上の満足感を得ている。次いで「静けさ、のどかさ」の3.92点、「料理や食事」の3.74点となっている。

■宿泊地の満足度

「温泉が楽しめる」が最も高く、4.20点となっており、「まあ満足」以上の満足感を得ている。次いで「宿泊施設の立地条件がよい（景色等）」の4.08点、「宿泊施設の全体の雰囲気がよい」の3.99点となっている。

■来訪目的別満足度

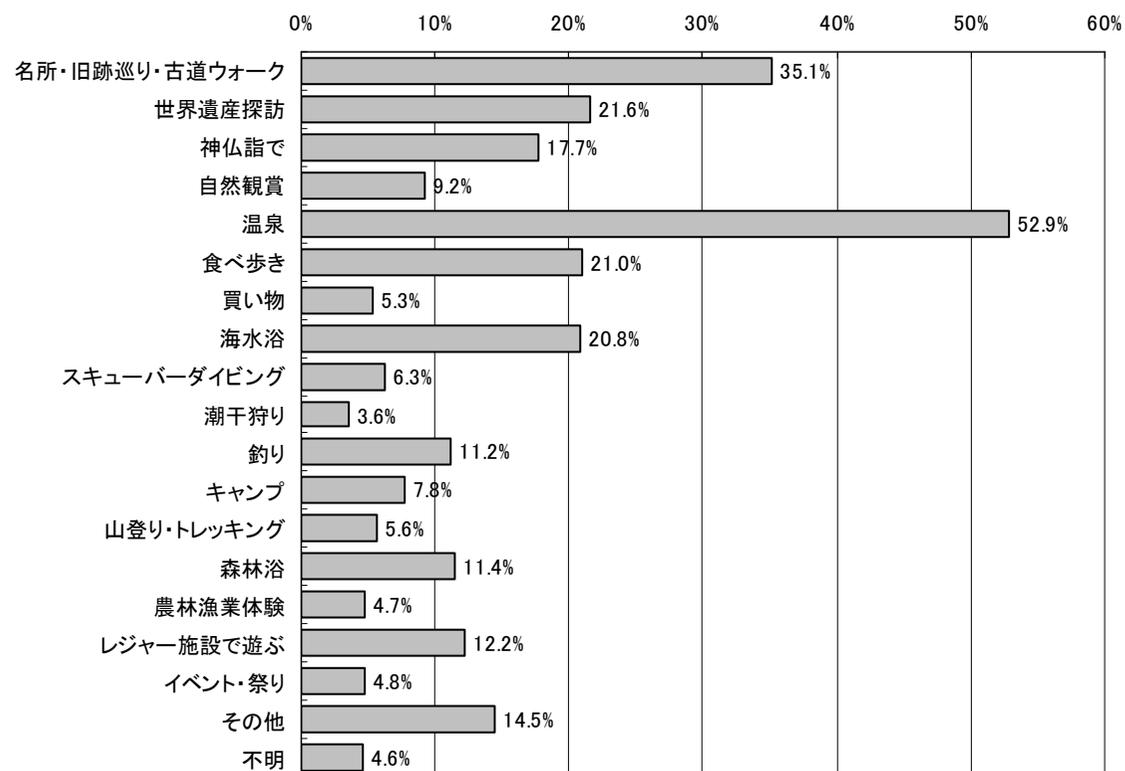
「海水浴」が最も満足度が高く、4.21点となっており、「まあ満足」以上の満足感を得ている。次いで「森林浴」の4.20点、「世界遺産探訪」の4.16点となっている。

■消費総額別満足度

消費総額に関係なく、80～90%は「まあ満足」以上の満足感を得ている。

今後してみたいレジャーは「温泉」が半数以上

■今後してみたいレジャー



(複数回答)

「温泉」が52.9%と最も多く、次いで「名所・旧跡巡り・古道ウォーク」の35.1%、「世界遺産探訪」の21.6%となっている。

世代別では、世代に関係なく「温泉」や「名所・旧跡巡り・古道ウォーク」「グルメ・食べ歩き」が多く、若い世代では「海水浴」が多くなっている。

来訪単位別では、来訪単位に関係なく「温泉」や「名所・旧跡巡り・古道ウォーク」が多くなっている。また1人での来訪者は「神仏詣で」や「世界遺産探訪」、カップルは「海水浴」や「グルメ・食べ歩き」、夫婦は「世界遺産探訪」や「神仏詣で」「グルメ・食べ歩き」、家族は「海水浴」、知人・友人は「グルメ・食べ歩き」が多くなっている。

観光消費額 2, 094 億円、経済波及効果は 3, 720 億円

■観光消費額の推計

平成20年観光入込客数: 31, 343千人
(日帰客25, 888千人、宿泊客5, 455千人)

平均訪問観光地点数(1.96 地点)
平均宿泊日数(1.45 泊)

観光客実人数の推計

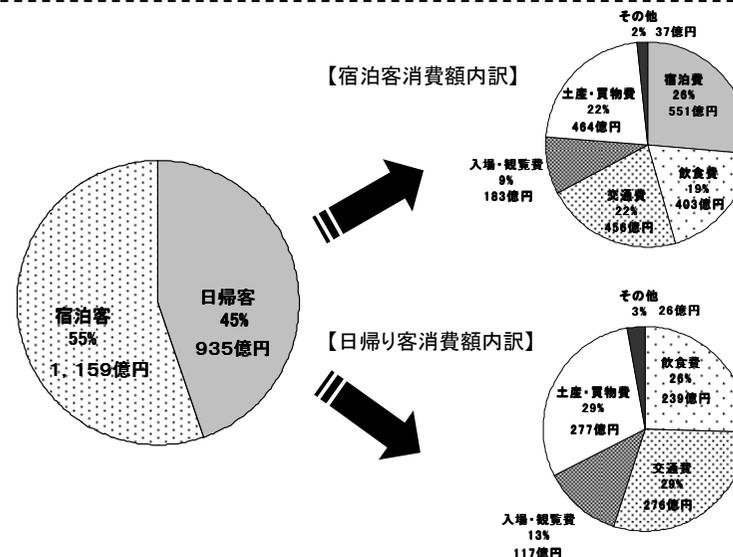
観光入込客実人数: 15, 991千人
(日帰客実人数12, 229千人、宿泊客実人数3, 762千人)

観光消費額の推計

		1人あたり消費額	1人当たり額×実人数
日帰客1人あたり 観光消費額	飲食費	1,956円	23,920,631千円
	交通費	2,256円	27,589,439千円
	入場・観覧費	956円	11,691,269千円
	土産・買物費	2,266円	27,711,733千円
	その他	212円	2,592,625千円
	計	7,646円	93,505,697千円
宿泊客1人あたり 観光消費額	宿泊費	14,652円	55,124,037千円
	飲食費	4,362円	16,410,801千円
	交通費	4,785円	18,002,219千円
	入場・観覧費	1,752円	6,591,408千円
	土産・買物費	4,956円	18,645,559千円
	その他	300円	1,128,666千円
	計	30,807円	115,902,690千円
観光消費額計			209,408,387千円

観光消費額 2, 094 億円

■観光消費額の内訳



■生産波及効果の推計

観光消費額 209, 408百万円

支出項目別観光消費額を、それぞれの支出が行われたと考えられる産業の消費額とする
(例: 交通費は運輸業、土産・買物費は商業の観光消費額とする)

第1次生産波及効果 281, 863百万円

産業別逆行係数の列和を用いて第1次生産波及効果を推計

第1次生産波及効果により生じた新たな民間消費支出額から第2次生産波及効果を推計

第2次生産波及効果 90, 180百万円

生産波及効果 3, 720 億円(県内生産額の5. 6%)

第1次生産波及効果+第2次生産波及効果